

## V. 塩原地方の夏緑広葉樹林

### Sommergrüne Laubwälder des Gebietes Shiobara

塩原地方では海拔約 1,500 m 以下がブナ林をはじめとする夏緑広葉樹林の潜在自然植生域となっている。塩原付近のブナ林については鈴木 (1952), 薄井 (1955, 1980) がチシマザサ—ブナ群集にまとめている。今回コカンスゲ—ブナ群落にまとめられたブナ林もそれらとほぼ同様の種組成をもつ。林床には裏日本型ブナ林; チシマザサ—ブナ群団の標徴種であるチシマザサやマルバマンサクを伴う点では裏日本型ブナ林の特徴を備えている。しかし, Tab. 38 にみるようにヒメモチ, ハイイヌツゲ, ハイイヌガヤ, ヒメアオキ, オオバクロモジ, ムラサキヤシオ, ヤマソテツなどの多くのチシマザサ—ブナ群団の標徴種群を欠いている。また, イヌブナ, ウラジロモミなど表日本のブナ林の構成種をもっており, 表日本と裏日本のブナ林の中間的な種組成を示している。薄井 (1955) も当地域と隣接する湯西川北部流域において, 表日本型ブナ林; スズタケ—ブナ群団の標徴種スズタケとチシマザサが混生するブナ林を報告し, 同地域が中間的な位置にあることを指摘している。海拔が高くなるにつれて裏日本気候の影響が強くなり, コカンスゲ—ブナ群落より高海拔に生育しているアスナロ群落には, オオバクロモジ, ムラサキヤシオ, ヒメモチ, ヤマソテツなどの日本海要素の種がみられる。以上のように塩原地方のブナ林は, ヒメアオキ—ブナ群集, マルバマンサク—ブナ群集のいずれにもまとめることはできない。しかし, チシマザサが優占することからコカンスゲ—ブナ群落はチシマザサ—ブナ群団にまとめられる。

海拔約 900m 以下はモミ, コナラ, クリ, アカシデ, イヌブナなどが優占または混生するクリー—コナラ群集, アブラツツジ—アカシデ群落の潜在自然植生域である。クリー—コナラ群集は南関東から二次林として報告された群集である (奥富・辻・小平 1976)。しかし, これらクリー—コナラ群集やクヌギ—コナラ群集の二次林と同様の種組成をもつ植生帯の存在は古くから示唆されてきた (中野1942, 吉良1949, 荻住1956, 大場1969, 奥富・辻・小平1976, 和田1977他)。また, 同様の植生は, 仙台付近, 福島県浜通り, 群馬県北部, 長野県などから報告されている (吉岡1951, 宮脇他1981, 宮脇・中村1982, 大場・菅原・大野1978, 和田1983)。いわゆる吉良 (1949) の暖帯落葉樹林および鈴木時 (1961) の中間温帯林に相当する。これらの植分にはブナが混生することがあるが優占することはない。塩原付近では那珂川, 箒川, 鬼怒川沿いに局部的に残存している。これらの自然林はこれまでに, スズタケ—ブナ群団, マルバアオダモ—ミズナラ群団, オーダー群団未決定など様々な上級単位に扱われている。今回関東周辺で報告されたブナ林と常程度表で比較され, ササ—ブナオーダーに対して, モミ, ウラジロノキ, アオハダ, アワブキ, イヌブナ, ハクウンボク, マルバアオダモ, ヤマツツジ, ムラサキシキブ, イヌシデ, ガマズミ, クリ, コナラなど多くの種群により区分された。したがって, これらの植分はイヌシデ—コナラ群団, コナラ—ミズナラオーダーの群落単位と判定される。